小林秀雄著『本居宣長』: 三十三章主題《漢意(からごころ。物:場 C‘)即ち宋儒(朱子學:理附け)の害と、それに千餘年の間、洗脳・隷属化され、しかもそれを悟らなかつた我が國》 その「關係論」的纏め。

①物の義(物:場 C‘)②物(物:場 C‘)③義(物:場 C‘)④學問(物:場 C‘)⑤思惟の道(物:場 C‘)⇒からの關係:臆(自己の臆見:F)に任せて、①(物の意味・字義)を定めれば〔理に還元:つまり自分流理附け(定義附け・原理附け)〕、①(物の意味・字義)は盡くされた(D1の至小化)として、②は棄てて了ふ(D1の至小化)、「◎:③(意味・字義)は②を離れて(D1の至小化)孤行し、」⇒「⑥:『義(意味字義)の論説』」(◎的概念F)⇒E:⑥〔理に還元:つまり自分流理附け(定義附け・原理附け)〕といふ形で、空言巧言(F)への道を開く(Eの至小化)。是が④で貴ぶ⑤を阻げる」(⑥への距離獲得:Eの至大化)⇒徂徠(△枠):④⑤への適應正常。

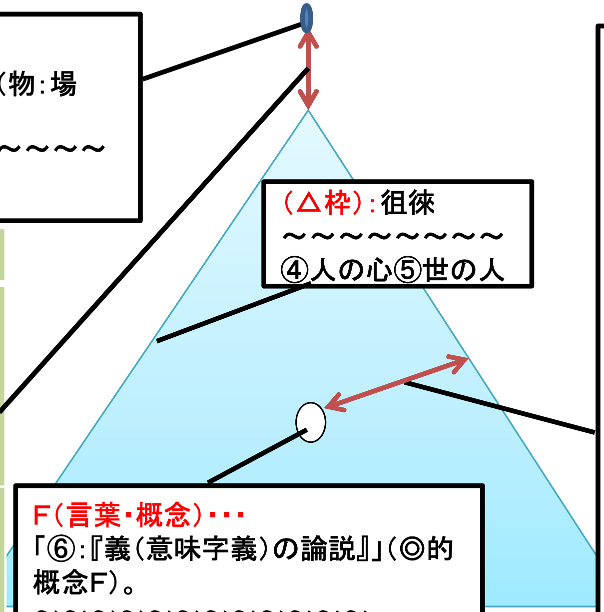
①漢意(からごころ。物:場 C‘)②古き書(物:場 C‘)⇒からの關係:「『◎:②の趣をよくえて(D1の至大化)』」、『①といふ物をさとりぬれば(D1の至大化)、おのづからいとよく分るる(D1の至大化)を、』」⇒「③:漢國(からくに:F)」(◎的對立概念F)⇒E:『何わざも③をよし(Eの至小化)として、かれ(③)をまねぶ(Eの至小化)世のならひ、千年にもあまりぬれば(Eの至小化)、おのづからその意(こころ:善惡是非を論ひ・物の理り)〔理に還元:つまり自分流理附け(定義附け・原理附け)〕世の中にゆきわたりて、④の底にそみつきて(Eの至小化)、つねの地となれる故に、我は①もたらずと思ひ、これは①にあらず、當然理也(しかあるべきことはりなり=理に精しき)と思ふことも、なほ①〔理に還元:つまり自分流理附け(定義附け・原理附け)〕をはなれがたき(Eの至小化)ならひぞかし』。『おしなべて⑤の心の地、みな①〔理に還元:つまり自分流理附け(定義附け・原理附け)〕なるがゆゑに、それ(①)をはなれて(D1の至大化)、さとる(D1の至大化)ことの、いとかたき(D1の至小化)ぞかし』。」(③への距離不獲得:Eの至小化)⇒④人の心⑤世の人(△枠):①への適應異常。

(物:場 C‘)・・・
①物の義(物:場 C‘)②物(物:場 C‘)③義(物:場 C‘)④學問(物:場 C‘)⑤思惟の道(物:場 C‘)
～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～
①漢意(からごころ。物:場 C‘)②古き書(物:場 C‘)

からの關係(D1の至大化)

＊「臆(自己の臆見:F)に任せて、①(物の意味・字義)を定めれば〔理に還元:つまり自分流理附け(定義附け・原理附け)〕、①(物の意味・字義)は盡くされた(D1の至小化)として、②は棄てて了ふ(D1の至小化)、「◎:③(意味・字義)は②を離れて(D1の至小化)孤行し、」。

＊「『◎:②の趣をよくえて(D1の至大化)』」、『①といふ物をさとりぬれば(D1の至大化)、おのづからいとよく分るる(D1の至大化)を、』」。



(△枠):徂徠
～～～～～～～～～
④人の心⑤世の人

F(言葉・概念)・・・
「⑥:『義(意味字義)の論説』」(◎的概念F)。
～～～～～～～～～～～～～
「③:漢國(からくに:F)」(◎的對立概念F)。

E:〔F(言葉・概念)との附き合ひ方・用法〕・・・「So called」「Fと(△枠)との距離獲得」(Eの至大化)。

＊「⑥〔理に還元:つまり自分流理附け(定義附け・原理附け)〕といふ形で、空言巧言(F)への道を開く(Eの至小化)。是が④で貴ぶ⑤を阻げる」(⑥への距離獲得:Eの至大化)」。
～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～
＊「『何わざも③をよし(Eの至小化)として、かれ(③)をまねぶ(Eの至小化)世のならひ、千年にもあまりぬれば(Eの至小化)、おのづからその意(こころ:善惡是非を論ひ・物の理り)〔理に還元:つまり自分流理附け(定義附け・原理附け)〕世の中にゆきわたりて、④の底にそみつきて(Eの至小化)、つねの地となれる故に、我は①もたらずと思ひ、これは①にあらず、當然理也(しかあるべきことはりなり=理に精しき)と思ふことも、なほ①〔理に還元:つまり自分流理附け(定義附け・原理附け)〕をはなれがたき(Eの至小化)ならひぞかし』。『おしなべて⑤の心の地、みな①〔理に還元:つまり自分流理附け(定義附け・原理附け)〕なるがゆゑに、それ(①)をはなれて(D1の至大化)、さとる(D1の至大化)ことの、いとかたき(D1の至小化)ぞかし』。」(③への距離不獲得:Eの至小化)。